

『瀬戸内海に浮かぶ島・豊島のキャリア教育』 ～職場見学と職場体験、20年後の自分につながる実践～

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会のなかで生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、瀬戸内海東部、小豆島の西方3.7kmに位置する豊島にある土庄町立豊島中学校が取り組んでいるキャリア教育についてご紹介します。

多様な職業観を持たせる

土庄町立豊島中学校は、島内にある唯一の中学校です。子どもの数が減ったことにより、今年度より豊島小学校の校舎に移転して施設一体型小中併設校としてスタートしたばかり。現在、中学生7名が小学生27名と同じ校舎で学んでいます。

同校がキャリア教育の一環として、職場見学と職場体験をカリキュラムに加えたのは、全国で同様の取り組みがスタートした15年ほど前のことです。岡下校長先生は、キャリア教育に取り組む背景やねらいを次のように語ります。

「本校の生徒は、人口900人弱のここ豊島で、幼いころから限られた人間関係のなかで育ってきました。確

かにインターネットを利用してさまざまな情報を入手することはできますが、商業施設や娯楽施設が無い島での暮らしでは、島外の人と接する機会も少なく、実際の社会体験が不足しています。さらに、島内にある事業所の数や種類も限られていますので、多様な職業観を持ちにくい状況にもあります。

そこで『社会と多くの接点を作り、多様な働き方と生き方に接するなかで、自らの進路について考える』ことを意図的に行う必要があるのです」。



香川県
土庄町立豊島中学校
岡下朋平校長
坂下美和教諭

【表1】 職場見学（1年次）カリキュラムの流れ

1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を通して働く意義を考える① (そうじの神様が教えてくれたこと)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学について① (過去の職場見学の写真や資料を調べる)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の職業調べ ・職業調べ発表会 (勤労の尊さや意義を知る) ・自分の適性を知る (自分と友達の良さ発見) ・さまざまな職業 (調べ学習) ・物語を通して働く意義を考える② (3人の石工) ・職場見学について② - 職場見学希望アンケート → 決定 - 質問項目の検討
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学について③ - マナー、電話のかけ方 - 交通手段や時刻の確認 - 質問項目の見直し - 挨拶文の最終確認
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・職場見学 (高松市内5事業所) - 洋菓子工房、バイク販売店、スポーツジム、大型書店、FMラジオ局 ・事後学習 - お礼状作成 - 冊子にまとめ、学んだことを発表する



職場見学はいろいろな職業と「働く目的」を知る場

1年生の3学期に行われる職場見学の準備は、1学期に始まります(表1)。翌年1月に見学場所の候補を選ぶのは生徒たち自身。これに向けて、地域の人が携わる「身近な職業」から自分たちの興味のある「気になる職業」までを調べていきます。

生徒一人ひとりが調べたことを発表し、多くの職業を知ることができたところで、話し合いで見学先候補を決定します。

見学先候補が決まったら、電話で見学受け入れの依頼をするのも生徒たちの役目。事前に「マナー研修」

で挨拶の仕方、電話のかけ方を学習していますが、「職員室の電話からかけるときは、緊張する生徒たちの心臓の音が聞こえそうなほど(笑)」。マニュアルも用意していますが、想定外の質問に大慌てで教師にバトンタッチすることも。社会人の世界を垣間見る貴重な第一歩になっていきます」と坂下先生。

今年度の見学先は、洋菓子工房、バイク販売店、スポーツジム、大型書店、FMラジオ局の5カ所。見学先が決まった後に、5カ所の見学先に共通して聞きたい事項と、見学先ごとに個別に聞きたい事項を分けて質問を準備し、見学当日は、これらを積極的に質問しました。「見学先では、働いている方々に『仕

事を選んだきっかけ』、『働く目的』、『中学生時代の夢』、『プライベートの過ごし方』などをインタビューしました。同じ職種でも、『仕事にはやりがいも生きがいも求めたい』という声がある一方で、『仕事は生活のための収入源として割り切っている』という方もいました。職場見学を通じて多様な仕事観があることを学べたことには、大きな意義があったと思います」(坂下先生)。

仕事と社会のつながりを 実感する職場体験

1年生での職場見学を土台として、2年生は夏に職場体験をします。職場見学がこれまで触れたことのない「憧れの職業」を知って「働くことに関心を持つ」機会だとすれば、職場体験は、より進んで「働くこと」の喜び、社会的な意義や役割を知る「機会」です。このため、カリキュラムでは、まず自分が職業を選ぶときの価値基準を考えることによって、職場体験で学ぶこと、何を目標に取り組みかを明確にさせることからスタートします(表2)。

3名の生徒が選んだのは、隣の小



豆島にある飲食店、保育所、コンビニエンスストアでした。「事業所が通勤できる場所にあるのか」や「本当に自分にできる仕事なのか」が、選択の重要なポイントとなりました。


3日間の職場体験を終えた生徒の感想を見ると、接客するうえでコミュニケーションの大切さに気づいたり、商品の陳列をするなかで仕事と社会とのつながりを実感し、自分と社会とのかかわりやさまざまな生き方に触れることができたようです。

一方、受け入れ先の事業所からは、「挨拶がきちんとできる」、「礼儀正しい」、「熱心に取り組んでいた」といった高評価をもらっています。

「豊島では、生徒たちは日常生活のなかで大人と接することが多く、敬語や礼儀マナーを自然に身につけています。よく家の手伝いをしていくこともあって、積極的に学校の掃除や草むしりをする子どもたちもたくさんいます。島の外から異動してきた教師には、子どもたちの良さがよく分かります。しかし、生徒自身はそれが『素晴らしい』ことだと気づいていないのですね。職場体験で、これまで接したことのない人たちが褒められることは、自らの価値に気づく貴重な経験になったと思います」（岡下校長）。

また、「少人数で学校生活を送っ

【表2】 職場体験（2年次）カリキュラムの流れ

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が職業を選ぶときの価値基準を考え、職場体験学習の目標を設定する ・事業所希望アンケート → 決定 ・事業所についてインターネットなどで調べる
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労の尊さと働く意味、生きがいを考える ・マナー、電話のかけ方 ・職場体験で学ぶこと ・働くことの意義を考える ・事業所への電話
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介文の作成（宿題） ・前日指導 ・職場体験学習 
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習（お礼状作成、職場体験記録まとめ） ・授業参観で発表会



ていることから、大きな集団のなかで自分の位置や役割をつかむ訓練ができておらず、自信や自己肯定感がない生徒が多く見受けられる点も豊島中の生徒たちの課題となっています」（岡下校長）。

職場体験によって、これまで気づかなかった自分の価値を知ること、つまり、「役に立つ自分」、「必要とされている自分」を実感することも、同校のキャリア教育のねらいの一つです。

地域とのかかわりのなかで 自分の将来を見通す

これまで見てきたように、豊島中学校のキャリア教育は、働く人の実

際の生き方に触れることにより、自分の能力や適性を見つめ、たくましく生きる力を育てることをねらいとしています。このため、職場見学や職場体験を一時の「貴重な体験」として終わらせるのではなく、ここで学んだことを今の自分の暮らしと関係づけて考えることが重要です。

そこで同校では、豊島という地域のなかで暮らしていることに着目し、ふるさと豊島の課題をみんなで作る、地域のひとともに解決を図っていく活動に力を入れています。これが「てしま学習」で、毎年テーマを決めて全学年で取り組んでいます。

今年度のでてしま学習は職場見学と職場体験で得た学びをベースに、自分たちの将来と豊島の未来を考え



てみようと、「2036年の同窓会」という未来劇の創作に取り組みました。脚本は生徒たちが話し合っただけで決定。登場するのは、地元に残った卒業生、あるいは都会に出て地元を誇りに思いながら郷土を懐かしむ卒業生。また、ほかの地域から移住して豊島にやってきた人もいます。

脚本をまとめるにあたっては、地元で長年住み続けた高齢者へのインタビューや島外からインターンで豊島に移住してきた30代の方を招いての勉強会などの成果を盛り込みました。さらに、ドローンによる地域起こしの可能性に触れるなど、豊島の未来への明るい夢もこめられています。

劇が行われたのは、10月29日(土)。

当日は保護者だけでなく、島で暮らす大勢の人たちが劇を鑑賞。生徒の成長や、彼らの豊島への想いに打たれ、涙ぐむ人もいたそうです。

生徒たちからは、「20年後の豊島がどうなっているか、どう



なっていてほしいかを考えることは大変でした。でも、てしま学習で地域の方のお話を聞くなかで、私たちが自身がいろいろなことに挑戦していくことの大切さや、現在の豊島を未来に残していくことの重要性を感じました。「20年後も今と同じように自然が豊かで、人が優しく、地域の人とかかわりが多い豊島であってほしい」といった感想が聞かれました。

「将来彼らが島外でキャリアを積むことになるのか、あるいは豊島にとどまるか、今の段階では分かりません。でも今回のてしま学習を通して、一人ひとりが自分の将来と豊島の将来を真剣に考えたことは、生徒たちの見えない力となるのではないのでしょうか」(坂下先生)。

地域や保護者を巻き込み 未来を育てる教育へ

キャリア教育を生徒たちの糧となるカリキュラムとするには、どのように実践していけばいいのでしょうか。岡下校長は、「地域や保護者との連携がポイント」と考えています。

「島全体で『子どもは豊島の宝』という意識が強く、生徒の一人ひとり

真摯に向き合ってくれる大人が多いことが豊島の特徴です。例えば、職場見学・職場体験のそれぞれの学習を終えた後、子どもたちにとってどんな成長が見られたかについて保護者からコメントをいただきます。また、職場体験の仕上げでは、授業参観日に生徒たちが親の前で学んだことを発表しています。それ以外にも、保護者が積極的に参加して意見を述べるプログラムがあります。さらに保護者だけでなく、地域の方々がてしま学習や稲作体験の勤労学習などの総合的な学習の時間に意欲的にかかわってくださいます。

こうした地域との交流を通して、生徒たちは島の大人や親の価値観に触れ、さまざまな視点から自分の将来を見つめることができるのです。このように、『開かれた学校』として地域全体で子どもたちとかわっていくなかで、生徒たちの生きる力を育んでいくことが大切なのではないでしょうか」(岡下校長)。

「開かれた学校」として、保護者や地域を巻き込んでキャリア教育を進めることは、全国どここの学校でも実践できるはず、と豊島中の先生方はアドバイスしています。

金融教育の現場レポ

『瀬戸内海に浮かぶ島・豊島のキャリア教育』 ～職場見学と職場体験、20年後の自分につながる実践～

香川県

土庄町立豊島中学校 岡下朋平校長 坂下美和教諭